様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：２４４０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2017
課題番号：２６６７１０４２

研究課題名（和文）北欧との比較から推進する児童虐待予防強化のためのシステム開発に関する研究

研究課題名（英文）Development of preventive maternal health care system

研究代表者
横山　美江（YOKOYAMA, Yoshie）

大阪市立大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：５０１９７６８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：フィンランドは，妊娠中から出産後の学齢期に至るまで頻繁かつ継続的な支援がなされるなど，優れた母子保健システムが確立している。本研究では，フィンランドの育児環境と，日本の育児環境を出生人口に基づいた疫学研究の手法を用いて比較分析することにより，日本の育児環境の問題点と特徴を明らかにし,日本に適した新たな母子保健システムを開発することを目的とした。4か月児をもつフィンランドの母親の健康状態と日本の母親の健康状態を比較検討した。その結果，フィンランドの母親の方が，日本の母親に比べ，主観的健康感が有意によいことが判明した。

研究成果の概要（英文）：This study aims to clarify differences in subjective well-being for mothers with infants and associated factors by comparing Japanese and Finnish mothers.
In Finland, mothers with infants who received health check-ups at child’s age 4 months participated in the study. In Japan, mothers with infants who should receive health check-ups at child’s age 4 months and, whose age, age of the infant, and number of children matched with the Finnish mothers were selected. All Finnish mothers had individual infant health check-ups withby nurses in Maternity and Child Health Clinics nearly monthly. The same nurse was responsible for following up the family throughout the years. All Japanese participants received group health check-up once at child’s age 3 to 4 months, and a nurse did not cover same child and their mother. Finnish mothers had better subjective well-being than Japanese mothers.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：フィンランド　母子保健　ネウボラ　保健師

１．研究開始当初の背景

児童虐待は，アメリカやヨーロッパ等の先進諸国や発展途上国でも多発しており，しかも多くの国々で増加傾向にある。わが国においても，児童虐待の相談件数は統計データを公表し始めた 1990 年度から比較すると 2012 年度には約 60 倍に膨れ上がっており，死亡事例も多発していた〔厚生労働省大臣官房統計情報部〕。虐待の影響は被虐待者への影響に止まらず，被虐待者が親になった時には，その子どもに自らが虐待行為をするといった虐待の連鎖が生じやすいことも指摘されている。このような児童虐待に対しては未然に防ぐことの重要性が指摘されており，児童虐待予防対策の検討が急務となっている。

一方,フィンランドでは児童虐待に関する事件はほとんど発生していない。フィンランドは，妊娠中から出産後の学齢期に至るまで頻繁かつ継続的な支援がなされるなど，優れた母子保健システムが確立している。虐待の発生が極めて少ない育児環境を有するフィンランドと，日本の育児環境の現状を比較分析することにより，人種や文化的背景を超えて，虐待予防強化のための方策，さらには，親子のための育児環境の改善に対して重要な手がかりが得られる可能性が高いと推察された。

２．研究の目的

本研究では，児童虐待の発生が極めて稀であるフィンランドの育児環境と，虐待による死亡事例も多発している日本の育児環境を出生人口に基づいた疫学研究の手法を用いて比較分析することにより，日本の育児環境の問題点と特徴を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究における日本の調査対象者は，関西圏に在住する乳児健康診査の対象児をもつ両親であり，乳児健診時に育児環境と両親の健康状態等について追跡調査を実施した。フィンランドにおいても同様の調査を実施し，日本とフィンランドの育児環境と両親の健康状態について比較分析を行った。

４．研究成果

フィンランドのヘルシンキに在住するネウボラを利用する 4 か月児をもつ母親と、フィンランドの母親の年齢、子どもの月齢、および子どもの数をマッチさせた日本の母親の健康状態を比較分析した。その結果、母親のストレス得点やエジンバラ産後うつ病自己評価票（EPDS）得点には差はなかったものの、母親の主観的健康感には有意な差異が認められ、フィンランドの母親の方が主観的健康感がよいということが明らかとなった。加えて、フィンランドの母親は、ネウボラの保健師から育児情報を得ていると回答した者が 85.1%であったのに対し、日本の母親では 7.7%であり、日本の母親は有意に保健師から育児情報を得ていると回答した者が少なかった。さらに、多変量解析により他の要因を調整しても、保健師からの育児情報は、母親の主観的健康感を高めるうえで重要な役割を果たしていることも示された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　8 件）

① Yoshie Yokoyama, Tuovi Hakulinen, Masako Sugimoto, Karri Silventoinen, Mirjam Kalland.
Maternal subjective well-being and preventive health care system in Japan and Finland.
European Journal of Public Health.
12,1-6,2017
10.1093/eurpub/ckx211,2017
査読あり

② 横山美江,Tuovi Hakulinen-Vitanen.
フィンランド：ネウボラの妊娠・出産・子育て．保健の科学.
59(7),483-488,2017
査読なし

③ 横山美江.切れ目ない支援を推進するための保健師活動．保健師ジャーナル.
72,14-19,2016
査読あり

④ 横山美江,Tuovi Hakulinen-Vitanen.
フィンランドの母子保健システムとネウボラ．保健師ジャーナル.
71(7),598-604,2015
査読あり

⑤ 杉本昌子,横山美江.父親の虐待的子育てに関連する要因の検討.
小児保健研究,74,922-929,2015

査読あり

⑥ 北原綾,杉本昌子,林知里,横山美江.
1歳6か月児をもつ父親の育児行動に関係する要因の検討：6つの育児行動に着目して.
小児保健研究.74,630-637,2015
査読あり

⑦ Hayahi C,Yokoyama Y,Murai C.
Factors Affecting Maternal Uneasiness With Child-Rearing Comparative Study of Mothers With First-Born Children And Second-Born or Later Children Who Received 3-Month Health Check-Up. Journal of Pregnancy and Child Health,10.4172/2376-127X.1000115 , 2014
査読あり

⑧ 村井智郁子,林知里,横山美江.母親の育児に関する相談事と背景要因－3か月児健康診査のデータ分析から－.
日本公衆衛生看護学会誌.3(1),2-10,2014
査読あり

〔学会発表〕（計 8件）

① 横山美江，北岡英子，近藤政代，岸田久世.切れ目ない妊娠・出産・子育て支援：フィンランドのネウボラから学ぶ.第5回日本公衆衛生看護学会学術集会.2017.

② 横山美江.切れ目のない妊娠・出産・子育て支援：日本版ネウボラをめざして．第4回日本公衆衛生看護学会学術集会．2016

③ 横山美江.地域母子保健における養育者・子どもへのセルフケア能力の育成の展望と課題：健康格差低減をめざしたフィンランドのネウボラから学ぶ.第18回日本地域看護学会学術集会.2015

④ 横山美江.ネウボラ妊娠・出産・子育て支援．大阪から切れ目ない妊娠・出産・子育て支援を進めるシンポジウム.2015

⑤ 横山美江.地域保健の取り組みの中で子育て困難感にどう対応するか：北欧モデルから手掛かりを探る．第73回日本公衆衛生学会総会シンポジウム.2014

⑥ 林知里，村井智郁子,横山美江.3か月児健診受診時の母親の育児負担感－集合住宅と一戸建て住宅の多母集団同時分析－．第73回日本公衆衛生学会総会．2014

⑦ 中尾由紀美，中島裕子，岡田めぐみ，横山美江.乳児期の栄養方法と母親の育児環境との関連（第1報）第73回日本公衆衛生学会総会．2014

⑧ 中島裕子，中尾由紀美，岡田めぐみ，横山美江．乳児期の栄養方法と母親の育児環境との関連（第2報）第73回日本公衆衛生学会総会．2014

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
横山 美江（YOKOYAMA Yoshie）

大阪市立大学大学院・看護学研究科・教授
研究者番号：50197688

(2)研究分担者

林　知里（HAYASHI Chisato）
大阪市立大学大学院・看護学研究科・准教授
研究者番号： 50454666

(3)連携研究者

（　0　）

研究者番号：

(4)研究協力者

村井智郁子，北原綾，杉本昌子，
中尾由紀美（　4　）